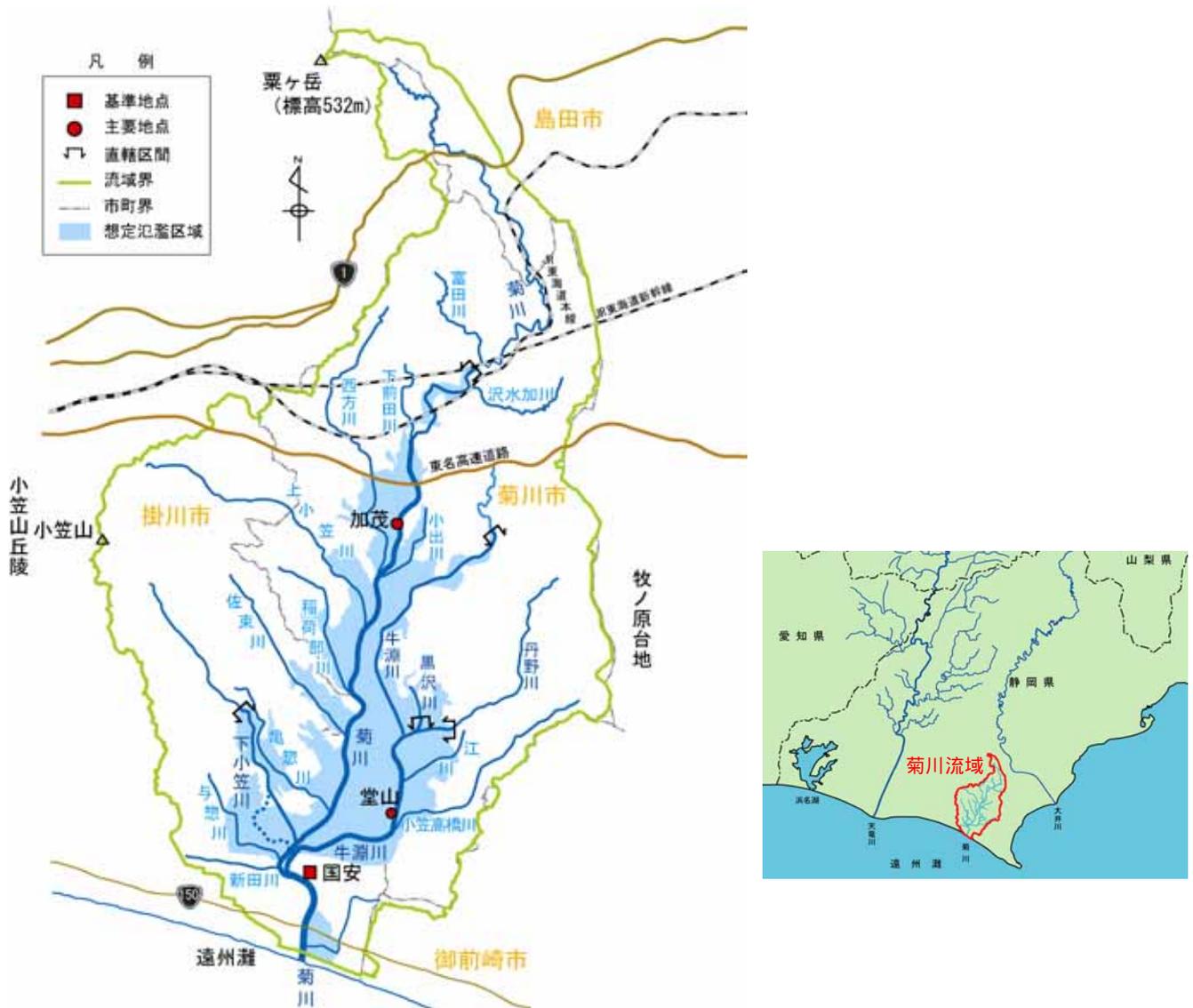


第1章 流域の自然状況

1-1 流域の概要

菊川は、静岡県中西部の太平洋側に位置し、その源を静岡県掛川市粟ヶ岳(標高 532m)に発し、東の牧ノ原台地、西の小笠山丘陵に挟まれた低平地を蛇行しながら南に流下し、西方川、上小笠川、下小笠川、支川最大の牛淵川等の多くの支川を合わせ遠州灘に注ぐ、幹川流路延長 28 km、流域面積 158 km²の一級河川である。



菊川の各種諸元

流域面積 (km ²)	流域内人口 (千人) (H13.10 河川現況調査)	想定氾濫区域内				流域内の 主要都市と人口 (H17.6.1)
		面積 (km ²)	人口 (千人)	資産 (億円)	人口密度 (人/km ²)	
158	70.0	39.1	33.1	5,431	846	掛川市(117,950) 菊川市(48,110)

図-1.1 菊川水系流域図

1-2 地形

菊川流域の地形は、洪積台地と丘陵を中心として、それを取り巻く山地、低地、海岸平野の各種の地形により成り立ち、古大井川の扇状地として堆積した砂礫層をのせる^{こおいがわ}牧ノ原台地が東側の稜線を造り、小笠山丘陵が西側の稜線を造っている。これらの牧ノ原西斜面及び小笠山東斜面の中央部に菊川の低平地が広がる。

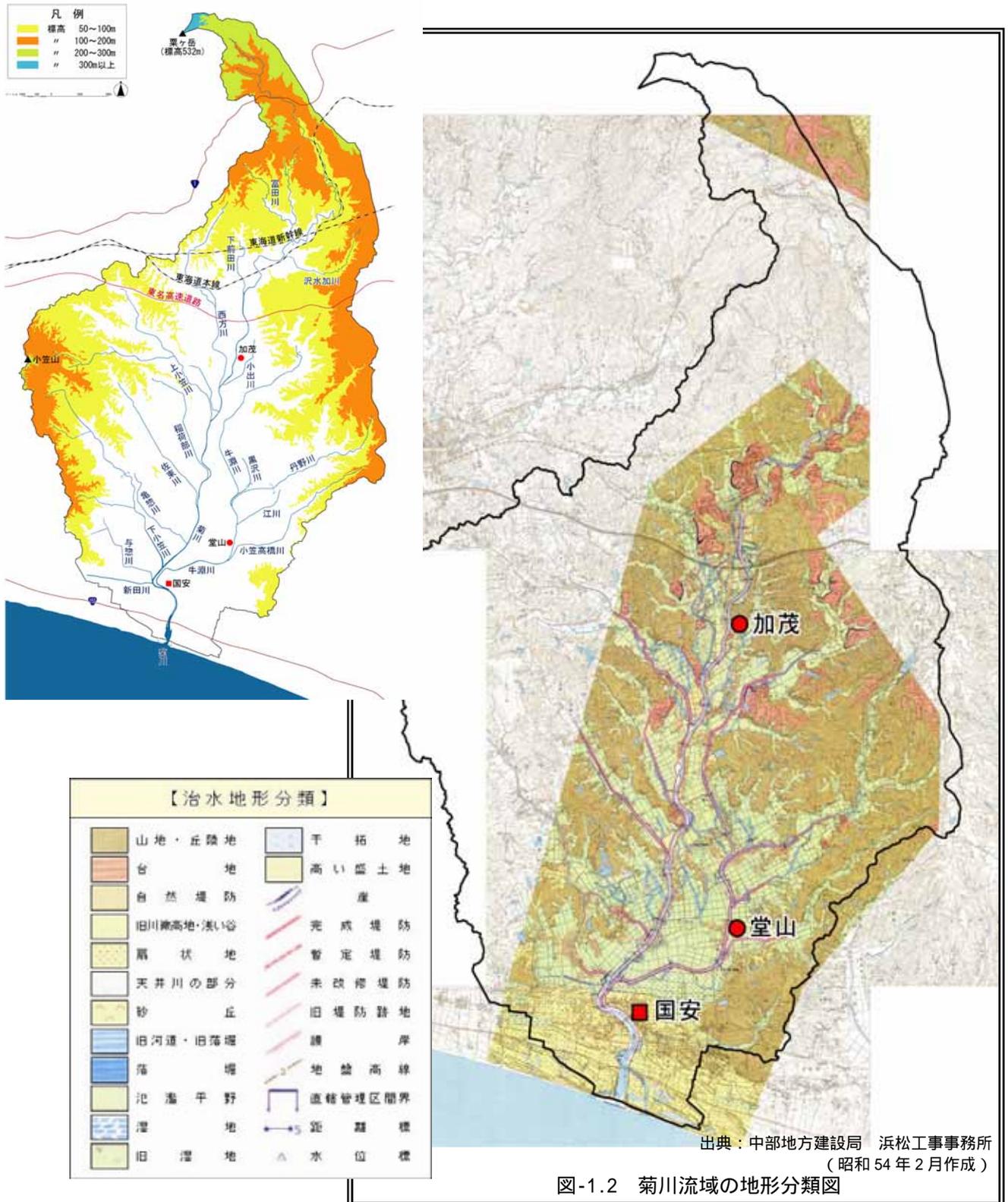


図-1.2 菊川流域の地形分類図

1-3 地質

菊川流域の地質で最も古い地層は最上流部に分布する古第三世の瀬戸川層群であり、これを基盤として、上位に新第三紀の大井川層群、三笠・相良層群、掛川層群が順に堆積している。第三紀層の岩相は、海成の砂岩とシルト岩が大部分を占めている。

三笠・相良層群は、NE-SW 方向の背斜・向斜軸をもつ褶曲構造を造り、同方向の断層なども多い。掛川断層・曾我断層は、南西に開いた浅い向斜構造を呈し、数多くの小断層が分布している。しかし、構造に大きな影響を与えるような大断層は見当たらない。

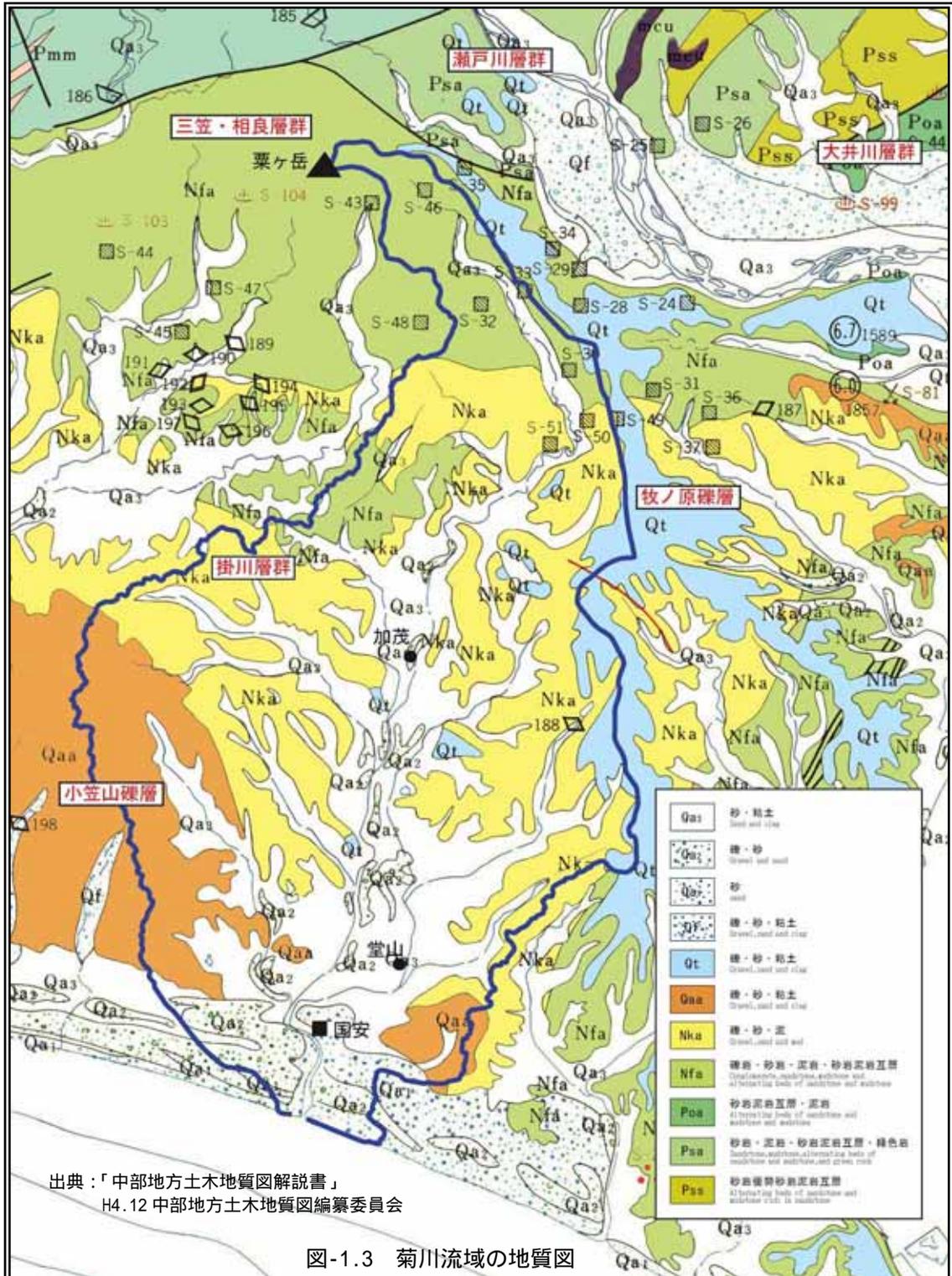


図-1.3 菊川流域の地質図

1-4 気候、気象

菊川流域は、太平洋沿岸に面しており、全体的に温暖な気候である。この地方の年平均気温は15を超え、静岡県の特産物であるミカン・茶などの栽培に適している。

流域内の平均年降水量は、平野部で約1,900mm、山間部では約2,100mm程度の多雨地帯となっている。

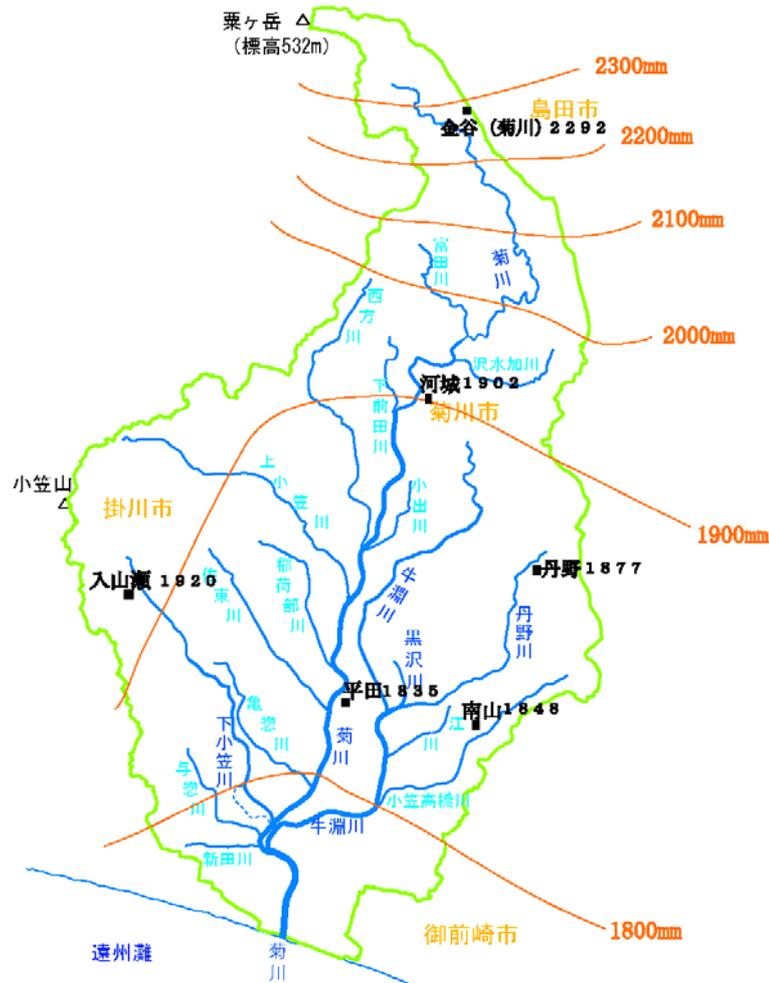


図-1.5 平均年降水量分布図(H7～H16)

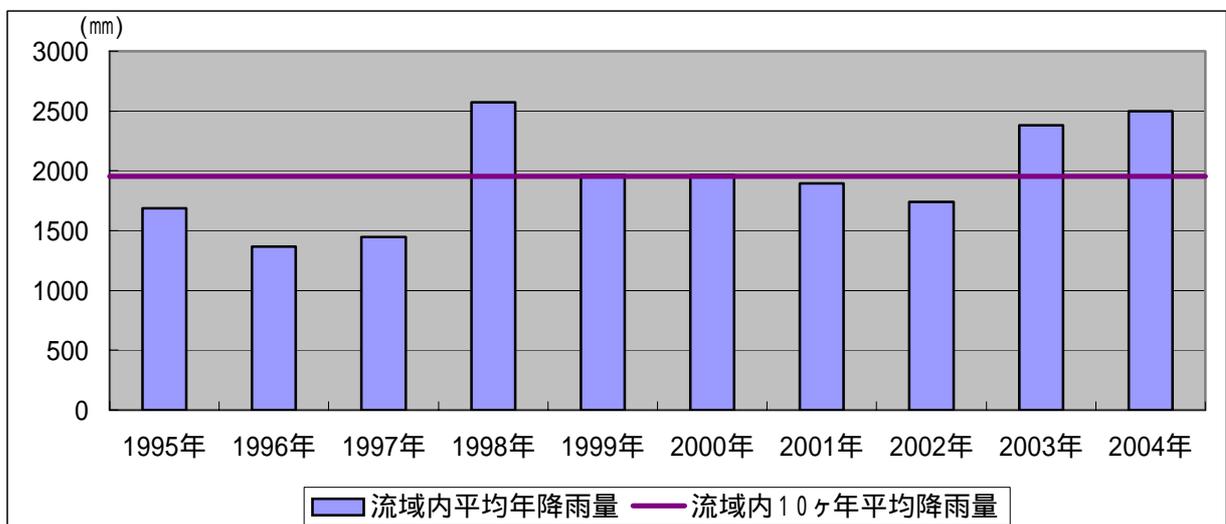


図-1.6 流域内平均年降水量 (H7～H16)